慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	N-(2-ピリジルメチル)イミノジ酢酸の^{99}mTc標識体の体内挙動
Sub Title	
Author	加留部, 善晴(Karube, Yoshiharu) 三浦, 純子(Miura, Junko) 岩本, 浩司(Iwamoto, Koji) 前田, 辰夫(Maeda, Tatsuo) 松島, 美一(Matsushima, Yoshikazu)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1986
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.31 (1986.) ,p.90- 90
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000031-0094

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

N-(2-ピリジルメチル)イミノジ酢酸の^{99m}Tc 標識体の体内挙動

加留部善晴*，三浦純子*，岩本浩司*，前田辰夫**，松島美一

〔日本薬学会　第106年会（1986年4月，千葉）で発表〕

新しいコンプレキサン型配位子，N-(2-ピリジルメチル)イミノジ酢酸 (2-PMIDA) を合成し，その ^{99m}Tc 錯体の放射性医薬品としての可能性を検討した。2-PMIDA は2-アミノメチルピリジンとモノクロル酢酸ナトリウムの反応により合成した。^{99m}Tc 錯体はスズ還元法により調製，生成を TLC により確認した。^{99m}Tc 錯体を正常および担がん動物に静注，シンチカメラにより放射能の体内動態を経時的に撮影した。また，投与一定時間後の放射能の臓器・組織分布を γ-シンチレーションカウンターで測定した。

2-PMIDA の ^{99m}Tc 錯体は速い血中クリアランスを示し，腎臓より排泄された。腫瘍部位は静注1時間後に鮮明に描画されたが，大部分の放射能が排泄されたため撮影に時間を要した。この錯体は腎臓機能診断薬として有用であることが示唆された。

* 福岡大学薬学部
** 九州がんセンター

コンプレキサンおよびそのリン酸誘導体の錯体による腫瘍シンチグラフィー*

加留部善晴**，高田二郎**，藤井純子**，岩本浩司**，松島美一

〔第3回　金属の関与する生体関連反応シンポジウム（1986年6月，名古屋）で発表〕

コンプレキサンおよびそのリン酸誘導体に属する配位子14種を合成し，その ^{99m}Tc 錯体を担がん動物に投与し放射能の動態および臓器分布を調べた。14種のなかでは N-(2-acetoamido)-iminodiacetic acid (ADA) 錯体が最もがん親和性が大であった。N-(2-pyridylmethyl)iminodiacetic acid (PMIDA) 錯体は腫瘍取り込みは少なく腎機能診断に有用となる可能性を示した。コンプレキサン型配位子のカルボキシル基を phosphonic acid で置換したリン酸誘導体の錯体の多くは骨親和性が大で，優れた腫瘍診断剤となる可能性は少なかった。

* 要旨は *J. Pharmacobio-Dyn.*, **10**, s-7 (1987) に発表
** 福岡大学薬学部